

ISSN 0386-8931



二〇〇一年二月五日印刷
二〇〇一年二月五日発行

史

窓

第五十八号

史学科創設五十周年記念特集号

京都女子大学史学会

二〇〇一年・二

学園創立九十周年
史学科創設五十周年
記念特集号

第58号

2001・2

京都女子大学史学会

目 次

史学科の半世紀——五十周年を迎えて——……………常 松 洋 (i)

論 文

石川丈山研究余話……………山 本 四 郎 (1)

後漢書列伝六十一朱儁伝訳稿……………狩 野 直 禎 (15)

ヘーラクレイトスにおける一者……………永 井 康 視 (25)

阿衡の紛議——上皇と摂政・関白—— ……瀧 浪 貞 子 (37)

行旅難渋者救済システムについて——法的整備を中心にして—— ……柴 田 純 (53)

幕末・明治初年における地主の存在状況……………中 山 清 (67)

日本人会ネットワーク——北米日本人会の組織と活動を中心に—— ……坂 口 満 宏 (83)

礼忠簡と徐宗簡研究の展開——居延新簡の発見を契機として—— ……永 田 英 正 (97)

元代浙西地方の税糧管轄と海運との関係について……………植 松 正 (111)

元末の海運と劉仁本——元朝滅亡前夜の江浙沿海事情—— ……檀 上 寛 (119)

一二世紀初頭ハラブの住民指導者たち……………谷 口 淳 一 (131)

キャロライン王妃事件をどうとらえるか

——イギリス王室と民衆・世論——……………古 賀 秀 男 (143)

アメリカのヴィクトリアニズムと中産階級……………常 松 洋 (159)

ロシアの人口移動 (十八—二十世紀) とその特色……………中 村 泰 三 (171)

皇親と賜姓皇親……………吉 住 恭 子 (181)

唐代の積奠について……………中 野 昌 代 (197)

『新撰姓氏録』における姓意識と渡来系氏族……………菅 澤 庸 子 (209)

播磨国越部下荘相論に関する一考察

——元亨三年後醍醐天皇安堵について—— ……岸 本 香 織 (221)

天王寺妙厳院御比丘尼御所——中世大坂の寺院史についての試み—— ……木 原 弘 美 (233)

菩提山本願信円の夢……………大 原 眞 弓 (243)

文化・文政期高松藩における砂糖積出状況

——大内郡引田村を事例として——……………宇 佐 美 尚 穂 (257)

幕末期萩藩における給領取立農兵——寄組浦家を事例として——	……上田純子	(269)
初代上海領事品川忠道に関する一考察	……松本郁美	(281)
『佳人之奇遇』を読む——小説と現実の「時差」——	……高井多佳子	(293)
前漢文帝期の政治における一考察	……上野有美子	(307)
北魏末期の爾朱榮	……小島典子	(317)
唐玄宗「御製御書」闕特勤碑文考		
——唐・突厥・吐蕃をめぐる外交関係の推移——	……菅沼愛語	(329)
広西省貴県における団練の形成と郷紳	……吉野香	(341)

史料紹介

後桜町女帝年譜稿	……所京子	(353)
尚順書翰——鳩居堂熊谷信吉宛——	……竹村房子	(365)

彙報	……	(379)
----	----	-------

表紙の題字は故那波利貞先生の筆。『史窓』
が活版印刷になり第5・6合併号を発行した
とき（昭和29年）御書きいただいたものです。

論

文

二〇〇〇年度 学会行事

新入生歓迎会

四月六日(木) 新入生オリエンテーション

新入生との初めての対面。二回生・三回生とあった私たちが学会委員としてはまだまだ新入生並みでした。一回生の目にも甚だ頼りない先輩と映ったことでしょう。既に任期を終えられた四回生の先輩方にもご助力いただきながら準備を進めました。

そして当日。四回生の先輩方に見守られつつ、新入生歓迎会は始まりました。新米委員長の拙い挨拶に引き続いて、委員それぞれの自己紹介。人前に出て話すことに未だ慣れていない挨拶は新入生の皆さんにはひどく不自然な日本語に聞こえたことと思います。自己紹介、新歓バスツアーのお知らせなどを伝えた後は、毎年恒例の質問タイムへと突入です。今年度の一回生からカリキュラムへと突入です。そのため、毎年多様を極める質問は今年は更に難しいものとなり、一年・二年先輩の私たちも右往左往する有り様でした。私たちもできる限り質問に答えようと教室内を走り回りましたが、大変的を得ない返答になってしまったと思います。この場をお借りして、深くお詫びいたします。

春の新歓バスツアー

四月一四日(金)

新入生歓迎バスツアー。嵐山学会委員にとっても一回生にとっても春のメインイベントである、この「新歓バスツアー」。前日までに、各々が役割分担して準備をすませました。

当日の昼休み、丁四二〇の教室において、先生方を交えての昼食会を開きました。新入生一人一人の名前を名簿で確認しながら、お弁当とお茶を配ります。単純な作業に思えますが、実はかなり大変で

す。私たちがあわてふためいていると、入口には長い行列ができてしまいました。それをなんとか乗り切ると、時間を見計らって瀧浪先生に、天龍寺、そして嵐山の解説と見所を説明して頂きました。

次に毎年大変なバスへの移動。今年は、バスの停車位置が丁館の前という交通量の多い場所へ移動したため、例年よりも乗車を急がなければなりません。やはり手間取りましたが、バス三台はなんとか天龍寺へと出発しました。大学から嵐山までは約四〇分程かかりました。バスの中では早速、毎年恒例の自己紹介が始まりました。出身地や趣味など互いの共通点を見つけては盛り上がり、どんな友達か、輪が広がりました。その場の雰囲気は和やかなものでした。

あつという間に嵐山に到着。バスを降りた後、ポカポカ陽気の中、先生方を含めた一五〇人の団体は、ぞろぞろと天龍寺へと急ぎました。

天龍寺は桜やつつじが満開で色とりどりの景色に、すっかり心を奪われてしまいました。また、そよ風と共に桜の花びらが頭の上に積もり、ピンクの冠をかぶっているようでした。寺院を拝観した後は、集合時間まで嵐山散策。それぞれ自由に嵐山を満喫していました。私たちは、もみじや抹茶のソフトクリームを口いっぱいにはおぼり、渡月橋や桂川を見ながらのんびりと過ごしました。

楽しいひとときはすぐに終わってしまいました。帰りの点呼は、私たちの呼びかけに急いで戻ってきてくれた皆さんのおかげでもより早く終えることができました。帰りのバスの中は、皆ぐっすり眠って静かな空間でした。午後五時半過ぎ、全員無事に帰ってくることができました。先生方、新入生の皆さん本当にお疲れさまでした。平安観光の田村さん、今回もお世話になりました。

春季公開講座

五月二六日(金)

ロシアの人口移動(一八世紀〜二〇世紀)とその特性
本学教授 中村 泰三氏

日本近世のアイヌ社会

滋賀大学経済学部助教 岩崎 奈緒子氏

卒業論文中間発表

日本史専攻 一〇月一〇日(火)〜一三日(金)
東洋史専攻 一〇月一七日(火)〜一九日(木)
西洋史専攻 一〇月一二日(木)、一三日(金)

大学院文学研究科史学専攻

博士後期課程開設記念特別講演会

歴史から学ぶ―二一世紀の歴史学に向けて―
一〇月一七日(金)

歴史学は何が出来るか

大阪大学教授 川北 稔氏

歴史を語る「物」―鎖国直前の日中関係を探る―

皇學館大学学長 大庭 脩氏

一回生親睦会

一二月八日(金)

一回生と先生方の交流をはかりつつ、来年二回生となるに当たって専攻に分かれるための説明会を兼ねた親睦会が昼休みに行われました。先生方による各専攻の説明の後は質問会となりましたが、既に専攻を決めている人が多いのか、或いは尋ね難かったのか、質問はほとんど出ませんでした。短い時間でしたが、充実したひとときとなりました。

卒業生予餞会

一二月二〇日(水)

卒業論文の締め切り日でもあったこの日、午後六時より祇園のかがり火にて毎年恒例の予餞会が行われました。卒業生と先生方が一同に会し、和やかな雰囲気で行われました。卒業論文という最後にして最大の課題を無事終えることのできた先輩方の晴々とした笑顔が印象的でした。

早春の学会旅行

三月三日(金)、二四日(土)
中仙道をメインとした昼神温泉と日本大正村への
旅を企画しています。
(徳山 真由・是澤 綾)

二〇〇〇年度 史学科講義題目

史学科共通

講義

史学概論

常松教授・稲本教授

史学研究入門A

常松教授

史学研究入門B

柴田教授・檀上教授

日本史概論A

瀧浪教授

日本史概論B

坂口助教授

東洋史概論A

植松教授

東洋史概論B

檀上教授

西洋史概論A

常松教授

西洋史概論B

古賀教授

考古学A・B

家根講師

民俗学A・B

根井講師

日本美術史A・B

河上講師

東洋美術史

西上講師

西洋美術史

愛宕講師

歴史地理学

中村教授

講義

佐藤講師

漢文A・B

佐藤講師

演習

史学基礎演習A

史学基礎演習B

稲本・植松・古賀・瀧浪・永田・中山教授

柴田・檀上・藤縄・常松教授・坂口・谷口

助教授

日本史専攻

特講

古代社会と都城制I

瀧浪教授

日本史特殊2

稲本教授

地域社会と地主制

中山教授

新しい文化史としての移民史の研究

坂口助教授

自然観の変容

柴田教授

日本文化論

山路講師

講義

日本史講義I

日本史講義II

中山教授・坂口助教授

日本古文书

瀧浪教授・稲本教授

演習

日本史演習I

瀧浪・稲本・柴田・中山教授・坂口助教授

日本史演習II

瀧浪・稲本・柴田・中山教授・坂口助教授

東洋史専攻

特講

元末明初の海域世界と倭寇

檀上教授

古代東北アジア史の諸問題

田中講師

イスラーム時代の西アジア社会

谷口助教授

中国近世史料学—史料のかたち—

木田講師

中国古代官僚制度の研究

永田教授

中国近代・中世の歴史資料

富谷講師

講義

東洋史講義I

東洋史講義II

高嶋講師・角谷講師

東洋史講義III

田中講師・富谷講師

演習

東洋史演習I

東洋史演習II

永田・植松・檀上教授・谷口助教授

西洋史専攻

特講

一九二〇年代のアメリカ社会

常松教授

世界史におけるギリシア史の意味

藤縄教授

中世フランスの俗人領主階級

江川講師

近世フランスの王権と貴族

阿河講師

近代ドイツの政治・社会と教育

望田講師

バルカン、ユーラシアの東西文化交流

中村教授

講義

西洋史講義I

西洋史講義II

古賀教授

西洋史講義III

青木講師

演習

西洋史演習I

西洋史演習II

藤縄・古賀・常松教授

二〇〇〇年度 卒業論文題目

日本史専攻

赤澤亜由美

ドイツと徳島—第一次世界大戦と板東俘虜収容所—

新井 千恵

岸和田だんじり祭について

飯田 千尋

大奥の殿しぎの検証とそれでも大奥に入ってきたもの

伊木真紀子

千里丘陵と日本万国博覧会

池崎 美希

少武氏について

池田みのり

東海道吉原宿の飯盛女について

今野 雅美

六波羅探題の成立について

植田 薫

重光葵に見る東京裁判—戦争と平和の狭間で—

上野 真希

測量日記から見た伊能忠敬の日本測量

大里沙知子

三島宿と箱根

大橋 洋子

輪中水論—輪中意識と対立抗争—

岡部 弘子

友禪染—その誕生と流行について—

織田なつみ

三河水綿の流通機構とその変遷

越智 香織

近世京都の町人と町

落合 美和

幕末期における西陣機業地の構造—特に花車町について—

勝田 愛

日清戦争と民衆心理

金國 裕子

和宮下向が中仙道に与えた影響についての考察

川合 理恵

藤堂藩における無足人制度—特に伊賀国無足人について—

川口 恵子

近世後期における大津祭

木村 友美 御館の乱―上杉家督相続争いの背景―

清 さつき 日本古代史料にみる南島の一考察

久保 暢子 幕府内における北条政子の立場

久保田敬子 霊山における女人禁制の成立事由―トラン尼伝承を通して―

窪田 瑞恵 戦国日本の動物観の移りかわり―脅威から生きがいへ―

熊倉由香里 近世庶民の旅の様子

小島亜紀子 軍国主義と天皇制―陸軍将校生徒の教育から―

児島 浩子 伊東甲子太郎の志―御陵衛士の勤王思想―

小島真奈美 最澄について

小西波瑠佳 室町期細川氏の発展過程について

小西むつみ 乃木希典と殉死論―明治における乃木希典―

小林 瑞穂 海軍水路部―「自力ヲ以テ」海に取り組んだ歴史―

坂口 麗乃 文明開化と牛肉食

坂田 純 日本のお食と、その消滅

櫻井真理子 戦国時代の政略的養子

佐々木めぐみ 吉備真備の入唐に関する考察

柴田 葉子 第五福龍丸事件―焼津はどうして沈黙していたか―

杉山まり子 御堂関白記からみる藤原道長の出勤状況

鈴木 香織 人力車考―文明開化を走る「俥」たち―

鈴木 美緒 おもちゃは語る―技術の進歩を通してみるおもちゃ―

瀧本 美奈 織田信長と堺

田口 志乃 劇場のある風景―企業メセナをめぐるて―

竹内 鈴華 京町家とまちづくり

竹平留美香 国の祭礼による民衆支配―祇園御霊会を中心にして―

辻川野乃子 戦後処理論

窓

史

史

史

徳永 景子 『雨夜の伽草』にみる西條まつり

戸田 香代 頼通を造庭にかりたてたもの―高陽院庭園と平等院庭園にみる―

中川裕美子 「お菓子」について―お菓子の変動期、奈良・平安時代―

中島 真希 河内源氏の成立についての一考察

中林 美保 慶長・元和期の築城について

名知 蘭子 恒武朝政治の一考察

南條 直子 仮名文字から見た日琉の交流

西川 紀子 陰陽寮と天文諸相について

西田 涼子 御霊会と天立について―疫病対策の変遷―

野澤 幸代 江戸時代における人参文化

野本 景子 室町後期に於ける江北京極氏について―応仁・文明の乱前後を中心に―

橋村めぐみ 四国遍路における接待

端野真佐子 猿楽能の変遷と発展における一考察

畑山 麻美 鉄砲と足軽

早川 夕香 尾張藩家臣団の考察―上級藩士について―

林 恭子 北政所と淀殿―織豊期における武家女性―

久木 紅美 江戸時代の朝鮮通信使―朝鮮人街道を中心にして―

平野 亜弥 平清盛と後白河院

廣野 好美 津山藩とその学問―藩校を中心として―

廣畑 賀絵 齐明天皇と石の都・飛鳥

樋渡さとみ 保科正之―江戸幕府の太平の世を演出する―

福田衣里子 沖田総司―その一生―

福呂 直子 唐衣の成立について

藤沼 典子 土鈴―その変遷と庶民たちの想い―

古橋 千晴 来日外国人問題―外国人入国者の増加と来日外国人犯罪の増加―

細田 恵 織田信長と安土城における城下政策について

堀 貴美子 家訓からみる鴻池の経営方針

榎原 弥子 ザビエルと日本開教

増田 敦子 大伴坂上郎女にみる「家刀自」立場

松木みゆき 明治期の西陣織の発展

松田 香里 近世公家の家職

松田 理恵 新瀨の明治維新

松本 容子 龍安寺の石庭について

三島 薫 神聖とみられた子どもについて

三橋 瑞穂 鹿鳴館―ダンスの政治的・文化的意義から考える―

光山 華代 上方落語冬の時代

美馬由起子 阿波藩の御家騒動―益田豊後事件―

宮内 睦美 桂宮淑子内親王について―宮家を相続した内親王―

宮田有美子 上州島村における蚕種業の発展過程

六車 美保 竈の構築方法とその地域性―古墳時代の讃岐平野を一例として―

村上 博美 中世声聞師について―京都声聞師の発展と衰退―

森 亜希子 陽成天皇についての考察―退位問題を中心にして―

森 まち子 戦国の日米外交―安保体制・ガイドラインに注目して―

森下 都 京都府における明治期図画教育―毛筆画教育の一考察―

森田 裕子 化粧―江戸時代の白粉化粧―

森本 志保 大岡越前守忠相

矢尾 幸恵 近江商人升屋利兵衛―創業から自立まで―

柳浦 早紀 清水寺の勧進と五条橋

安井 絵美 ダグラス・マッカーサー―解放者という名の征服者―

矢田由美子 戦後日本における少年犯罪―近年の犯罪を保健室という観点から―

矢野 千代 天保改革における出版統制

箴中 直子 鳥取県に関わった老農―林遠里・中井太一郎を事例にして―

山崎 貴美 鉄砲の伝播とその普及について

山崎 貴美 修学旅行はなぜ続いたのか

山下 幸愛 蘇我氏の本拠地について

山本 敦子 女子教育にみる漢字の使用―「女大

山本 景子 東福門院と雁金屋―江戸時代初期の小

吉川 千草 金子みすゞ―自由への翼―

吉田 幸枝 推古天皇の遺言―その過程と真意―

輪違 貴子 生殖の自己決定権をめぐる闘い―墮胎

佐藤さやか 吉田松陰―彼が後世に残したものの

山下 敦子 町火消制創設までの過程

東洋史専攻

青山 泰子 マテオ・リッチと明末におけるキリス

綾田美奈子 蒲寿庚の生涯

池川 敦子 漢代の食文化

一木 良子 ジャワ島のイスラム化とワリ・サンガ

井本 敦子 唐代の官僚構成と科挙―唐初から開元

岩崎 由佳 『内訓』に見る徐皇后の思想とその行

大川 陽子 陽明学と時代の憂い

加藤 千晶 明代モンゴルにおける板升の意義

神尾ゆかり 満洲国建国前後の中国人の動向―九・

小関 円 唐王朝からみた日本

木場 千晶 タイにおける華僑社会の形成と同化に

吉野加寿子 カリーミー商人と諸王朝の関係―mam

渡邊 容子 唐代前期の国家権力と宗教勢力につい

東方 早苗 ベストの流行と中世末期のヨーロッパ
平木 享依 連邦を救った大統領―エイブラハム・リンカーン―

藤川 愛 一八四八年ウィーンにみる民衆の革命
古川千登勢 ビスマルクの政治戦略―中央党と社会主義者との闘争―

松木 志保 一八四六年穀物法廃止と地主・貴族層
村上由美子 オーストリア・ハンガリー二重帝国の成立とチエコ民族

矢野 裕子 フィレンツェ史におけるメディチ家
―そのパトロンエージについて―

山崎紀代美 ユナイテッド・アイリッシュメンとア
イルランドのナショナルリズム

渡辺 詔子 ラダイツ運動の歴史的性格
渡辺 円 縫製する女たち―19世紀・ロンドンの
スラムから―

『史窓』第五七号所載「一九九九年卒業論文題目
日本史専攻」におきまして、左記二名の論文題目
目が漏れておりました。お詫びして、ここに記載い
たします。

師岡 美和 室町期の近江国における佐々木氏
―応仁の乱から六角征伐まで―
山口 陽子 米沢藩の財政改革と金主・渡辺家
―上杉鷹山の政治を中心に―

二〇〇〇年度 大学院文学研究科

史学専攻博士前期(修士) 課程講義題目

特論

古代都市論

日本中世史特論

※近世大地主制の成立と展開(Ⅱ)

※日本における移民史研究の成果と課題

対外観の変遷

※自然観の変容

※京都にみる日本文化

日本古文書学特論

出土文字資料による中国古代・中世史
の諸問題
中国社会と「士」階層

元代史の研究
※中国古代・中世の歴史資料

※中国近世史料学―史料の歴史―
※イスラーム時代の西アジア

※バルカン、ユーラシアの東西文化交流
―ロドトス研究

※中世フランスの俗人領主階級
イギリス産業革命史研究

20世紀アメリカにおける都市
※近世フランスの王権と貴族

※近代ドイツ・ギムナジウムの社会史
(※は学部共通)

演習

日本史演習Ⅰ

日本史演習Ⅱ

日本史演習Ⅲ

日本史演習Ⅳ

日本史演習Ⅴ

東洋史演習Ⅰ

東洋史演習Ⅱ

東洋史演習Ⅲ

東洋史演習Ⅳ

西洋史演習Ⅰ

西洋史演習Ⅱ

西洋史演習Ⅲ

永田教授

檀上教授

植松教授

富谷講師

木田講師

谷口助教授

中村教授

藤縄教授

江川講師

古賀教授

常松教授

阿河講師

望田講師

植松教授

稲本教授

中山教授

柴田教授

坂口助教授

永田教授

植松教授

檀上教授

谷口助教授

藤縄教授

古賀教授

常松教授

史学専攻博士後期課程講義題目

特殊研究

女帝論

日本史特殊研究Ⅱ

地主制的土地所有をめぐる諸問題

19世紀以降の日本の東アジアにお
ける文化の交流と摩擦

近世の社会と思想

東洋史特殊研究Ⅰ

永田教授

檀上教授

植松教授

富谷講師

木田講師

谷口助教授

中村教授

藤縄教授

江川講師

古賀教授

常松教授

阿河講師

望田講師

植松教授

稲本教授

中山教授

柴田教授

坂口助教授

永田教授

植松教授

檀上教授

谷口助教授

藤縄教授

古賀教授

常松教授

東洋史特殊研究Ⅱ
明清時代の国家と社会

イスラーム時代シリア史研究
西洋古代史の諸問題

近代イギリスの王室と民衆
アメリカにおける大衆社会の成立

植松教授
檀上教授
谷口助教授
藤縄教授
古賀教授
常松教授

二〇〇〇年度 大学院修士論文題目

大西 香衣 明末福建における密貿易と海禁解除
―漳州月港を中心に―

河野あすか 清末民初における鄭孝胥の思想と行動
森永 恭代 清代後期長江三峡における民間航路整
備事業の実態―李本忠の事業に見る
官と民の関係―

小島 優子 一八世紀初頭オスマン帝国とチュ
リップ時代
(以上西洋史)

二〇〇〇年度 大学院行事
研究発表会・その他

四月二六日 大学院歓迎送迎会(「萬三」にて)

六月二〇日 京都女子大学周辺の神社現地見学会
(於山王神社・三島神社・滝尾神
社)

七月一〇日 修士論文研究発表会
明末福建における対外貿易

M2 大西 香衣
復辟派・鄭孝胥の思想とその行動
―清末から満洲国建国以前を中心
として―

M2 河野あすか
清代後期長江中流域における航路整
備事業とその背景―客商・李本忠
の活動を中心として―

M2 森永 恭代
一八世紀初頭オスマン帝国と西欧派
遣使節

M2 小島 優子

九月二三日

研究発表会

近世ロシアの僭称者—偽ツァーリの
登場とその背景—
M1 大西 紀子

フランス革命下の国民化政策
M1 貴傳名暁子

文久の修陵事業について
M1 佐竹 朋子

近世における殉死についての一考察
M1 藤江美由紀

近世後期奈良町における救済
M1 水谷 友紀

慶長遣欧使節の目的—伊達と幕府の
考え方の相違を中心に—
M1 南 晃子

壬午・甲申事変期における日本の朝
鮮政策
M1 武藤佳央理

軍部大臣現役武官制—大正二年の改
正とその影響—
M1 山中 裕子

管仲の法思想について—法家思想の
発展と関連して—
M1 馬場理恵子

北魏時代における仏教の発展につい
て—太武帝廢仏事件を中心に—
M1 村松 賢子

京都女子大学大学院文学研究科史学
専攻博士後期課程開設記念研究発表
会

近江湖岸村落の形態—近世浦村を
中心に—
D2 岸 妙子

幕末期高松藩砂糖生産地域における
生産構造—大内郡引田村を事例と
して—
D1 宇佐美尚穂

明治一八年段階における國權論の諸
相—政治小説『佳人之奇遇』にみ
る—
D2 高井多佳子

十一月二七日

修士論文中間発表会

一月二〇日 明末における月港開放と福建社会
M2 大西 香衣

満洲国参画につながる鄭孝胥の思想
—清末から満洲国建国以前の活動
より—
M2 河野あすか

清代後期長江三峡における民間航路
整備事業の実態—李本忠の事業に
見る官と民の関係—
M2 森永 恭代

一八世紀初頭オスマン帝国とチュ
リップ時代
M2 小島 優子

(終了後、「洛匠」にて懇親会)

研究室だより

本年度、京都女子大学史学科は創設五〇周年を迎え、新世紀の幕開けと共に史学科の歴史は世紀後半へと突入します。この記念すべき年の研究室だよりではありますが、まず悲しいお知らせから始めなくてはなりません。昨春から療養されていた藤縄謙三教授が、一〇月四日に逝去されました。史学科一同、先生の御冥福をお祈りするとともに、本学科に対していただいた御尽力に心よりお礼申し上げます。先生、現在進行中の全学的な改組にともない、人文準学科におられた竹内亨助教授が四月から史学科所属となりました。したがって、史学科の専任教員は、昨年度と同じく一三名ということになりました。また、今年度も多くの先生方に非常勤講師として授業を担当していただいております。例年通り、非常勤の先生方との懇親会を、五月二六日に「洛匠」にておこないました。

今年度の新入生は二九人でした。この学年から順次新カリキュラムへと移行し、セメスター制が採用されます。講義題目にAあるいはBとあるのはセメスター制でおこなわれる授業で、それぞれ年度前半と後半での開講を示しています。一方卒業予定者は一八一名と、近年では例外的に多くの卒業生を送り出すことになりました。年度始めの段階で、学部

在籍者数は休学者を含め五八〇名となっております。

大学院は改組されて二年目を迎えました。前期課程は二名の新入生を迎え計一六名に、後期課程は一名を迎えて計三名となりました。前後期合わせて一九名の大学院生が研究に取り組んでおり、改組を機に移転した大学院生研究室が早くも手狭になりつつあります。また、博士後期課程開設を記念して、一月に特別講演会と博士後期課程の学生による研究発表会がおこなわれました。

本年度も史学科の教員による研究成果の出版が相次ぎました。まず藤縄教授が精力を傾けてこられたトクキュディデス『歴史』の邦訳第一巻が京都大学学術出版会から出版されました。そして稲本教授が研究成果の一端を『三重県の歴史』（共著、山川出版社）の中で披露されたのに続き、柴田教授が『江戸武士の日常生活』（講談社）を、瀧浪教授が『帝王聖武』（講談社）を上梓されました。

史学科に限らず、本学の教職員や学生にとって見慣れた風景の一つとなっていた三鳥神社が、昨秋突如として姿を消し更地と化しました。また年末には「むろや」が店をたたみましました。半世紀にわたって営業してきたということですから、われわれ史学科とほぼ同じ時を刻んできたこととなります。もちろん、以上は馬町界限で目についた移り変わりの一部に過ぎませんし、史学科を取り巻く環境の変化は周囲の景観にとどまるものでもありません。京都女子大学史学科の第一世紀後半は、まだ始まったばかりです。

学会委員

二〇〇〇年度の学会運営に協力して下さった学会委員は次の方々でした。例年通り史学会諸行事の企画から運営まで、全般に渡って支えていただきました。ここに氏名を記して感謝の意を表します。

- 委員長 西洋史三回生 徳山 真由
- 副委員長 日本史二回生 樺田 志穂
- 計 西洋史三回生 是澤 綾

書 記 西洋史二回生 高橋美すづ
西洋史二回生 高山 薫
西洋史二回生 小谷美記子

編集後記

藤縄謙三先生の御逝去を悼む

昨年のゴールデン・ウィーク明けから療養生活を
送られた藤縄謙三先生が、二〇〇〇年一〇月四日午
前〇時五八分、永眠されました。享年七〇歳でし
たから、先生の早過ぎるご逝去は、同僚として、非平
に残念なできごとと言ひしかありません。

先生の入院中のご様子では、ずいぶん体調の良
さそうなきもあって、これなら教壇へはともか
く、以前の生活への復帰は可能であろうと考えてお
りましたから、よけいに衝撃的なできごとでした。
教員、学生ともに先生のご冥福をお祈り申し上げる
次第です。

▲ 『史窓』第五八号「史学科創設五十周年記念特集
号」をお届けします。

皆様のご協力により、現職ならびに旧教員の論考
一四編、本学卒業生ならびに大学院在学者・修了者
による論考一六編を掲載することができ、彙報も含
めて三八〇ページ余りにおよぶ大部な論文集となり
ました。

▲ 本号を企画するにあたり、可能な限り同窓生諸師
の間に執筆のご意向の有無を伺い、ご協力をお願い
致しましたが、多くの方々からご寄稿のご返事をいた
だきました。予算枠や締切日、その他の都合で採
録しきれぬ部分がありましたこと、お許し願いま
す。あらためてご寄稿くだされば幸いに存じます。

▲ 一昨年の秋、お元気だった藤縄謙三先生に是非と
も原稿をお寄せくださいとお願いしたところ、
『古代ギリシャ史学における戦争の役割』という題
目で論文を書きましよう」とのご快諾をいただきました。
その後、先生は体調を悪くされ、療養生活を
送られましたが、昨年一〇月、永眠されました。本
書に先生のご論考を頂戴できませんでしたこと、残
念でなりません。藤縄先生の死を悼み、次なる『史
窓』の編集を進めております。
(坂口)

執筆者紹介

山本 四郎 本学元教授
 狩野 直禎 本学名誉教授
 永井 康視 本学元教授
 瀧浪 貞子 本学教授
 柴田 純 本学教授
 中山 清 本学教授
 坂口 満宏 本学助教授
 永田 英正 本学教授
 植松 正 本学教授
 檀上 寛 本学教授
 谷口 淳一 本学助教授
 古賀 秀男 本学教授
 常松 洋 本学教授
 中村 泰三 本学教授
 吉住 恭子 京都市歴史資料館

中野 昌代 本学大学院研修者
 菅澤 庸子 本学大学院研修者
 岸本 香織 本学大学院研修者
 木原 弘美 本学大学院研修者
 大原 眞弓 本学大学院研修者
 宇佐美尚穂 本学大学院博士後期課程
 上田 純子 東京大学大学院人文社会科学系研究科博士課程
 松本 郁美 本学大学院研修者
 高井多佳子 本学大学院博士後期課程
 上野有美子 本学大学院研修者
 小島 典子 本学大学院研修者
 菅沼 愛語 本学大学院研修者
 吉野 香 本学大学院研修者
 所 京子 岐阜聖徳学園大学教授
 竹村 房子 本学卒業生

史窓 第58号

史学科創設五十周年記念特集号

二〇〇一年二月五日 印刷

二〇〇一年二月一〇日 発行

編集 京都女子大学史学会

印刷所 株式会社印刷同朋舎

発行所 京都女子大学史学研究室

京都市東山区今熊野北日吉

町三五

電話(075)531-1911

USAMI Takaho	Sugar Trade of the Takamatsu domain in the Bunka and Bunsei periods	(257)
UEDA Junko	<i>Nohei</i> , or the Feudal Soldiers of <i>Hagi</i> Domain in the Late Tokugawa Regime: A Case Study of the Land lord <i>Ura</i> 浦	(269)
MATSUMOTO Ikumi	<i>Shinagawa Tadamichi</i> 品川忠道, the First Japanese Consul at Shanghai.....	(281)
TAKAI Takako	Reading <i>Kajin no Kigu</i> 佳人之奇遇: Time Difference between a Fiction and the Reality	(293)
UENO Yumiko	The Politics of Xihan <i>Wen-di</i> 文帝 Period	(307)
KOJIMA Noriko	<i>Er-zhu Rong</i> 爾朱榮 in the Late North-Wei Dynasty.....	(317)
SUGANUMA Aigo	Inscription of Kol-Tegin written by <i>Xuan-Zong</i> 玄宗 and Diplomatic Relations between Tong Dynasty, Turk and Tibet.....	(329)
YOSHINO Kaori	The Organization of <i>Tuan-lian</i> 團練 and Gentry in Gui Prefecture, Guang-Xi Province.....	(341)
Historical Documents		
TOKORO Kyoko	A Manuscript on the Careers of Empress <i>Gosakuramachi</i> 後桜町.....	(353)
TAKEMURA Fusako	Letters of <i>Shojun</i> 尚順 Addressed to <i>Kumagai Nobuyoshi</i> 熊谷新吉	(365)
Miscellaneous		(379)

Contents

Foreword: A half Century of the Department of History.....(i)

Articles

- YAMAMOTO Shiro A study of *Ishikawa Jozan* 石川丈山.....(1)
- KANO Naosada A Japanese translation of the biography *ZHU-Jun* 朱儁.....(15)
- NAGAI Yasumi *One* in Heraclitus(25)
- TAKINAMI Sadako The Controversy on the Kampaku's Duties: The
Retired Emperor and Sessyo-Kampaku(37)
- SHIBATA Jun Relief system for the Sufferers on the Travel.....(53)
- NAKAYAMA Kiyoshi The Situation of Land Owners in the later Edo
and Early Meiji Periods(67)
- SAKAGUCHI Mitsuhiro Japanese Association of North America and
Network Relations(83)
- NAGATA Hidemasa A New Study on the Two Wooden Documents of
Li Zhong 礼忠 and *Xu Zong* 徐宗.....(97)
- UEMATSU Tadashi Relationship between the Management of the Grain
Tax and the Marine Transportation in Zhe-xi 浙西 District in Yuan
元 Period(111)
- DANJO Hiroshi The Marine Transport in the Late Yuan Dynasty and
Liu Renben 劉仁本(119)
- TANIGUCHI Junichi Leaders of the Aleppines in the Early Twelfth
Century(131)
- KOGA Hideo The Queen Caroline Affair: Popular Politics and the Royal
Family(143)
- TSUNEMATSU Hiroshi Victorianism and the Middle Class in America.....(159)
- NAKAMURA Taizo Migration of the Russia between 18th and 20th
Century(171)
- YOSHIZUMI Kyoko The Imperial Family and the Former Imperial
Family(181)
- NAKANO Masayo Concerning Confucian Ritual during Tang 唐 Period.....(197)
- SUGASAWA Yoko Sense of Surname in the *Shinsenshoujiroku* and the
Immigrants(209)
- KISHIMOTO Kaori The Conflict in *Koshibe-Shimo* 越部下 Manor of
Harima Province: A Case Study of Emperor *Godaigo's* Sanction in
the Third Year of *Genko* 元亨.....(221)
- KIHARA Hiromi An Approach to the Religious History of Osaka in
the Medieval Age(233)
- OHARA Mayumi A Dream of *Bodaisen-Hongan-Shin'en* 菩提山本願信円.....(243)

KYOTO WOMEN'S UNIVERSITY

Journal of Historical Studies

SHISŌ

Vol.58

February 2001

*Special Issue : To Commemorate the 50th Anniversary
of the Department of History*

THE ASSOCIATION OF HISTORICAL STUDIES

Kyoto Women's University, Kyoto, Japan

ISSN 0386-8931